

みんなで作るリポジトリ 共同リポジトリプロジェクト -ShaRe-

広島大学・山形大学・新潟大学・埼玉大学
文教大学・福井大学・岡山大学・広島工業大学
山口大学・長崎国際大学・琉球大学・北海道大学
千葉大学・金沢大学・大阪大学

広島大学図書館 濱 知美
hamatomo@hiroshima-u.ac.jp



お話しすること

1. プロジェクトの背景
2. 成果
3. 活動概要
4. 運用モデルの分析
5. 評価(アンケート調査より)
6. 課題と展望

プロジェクト報告書

-国内の地域共同リポジトリの分析- 2010年3月

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/seika/ShaReReport.pdf>

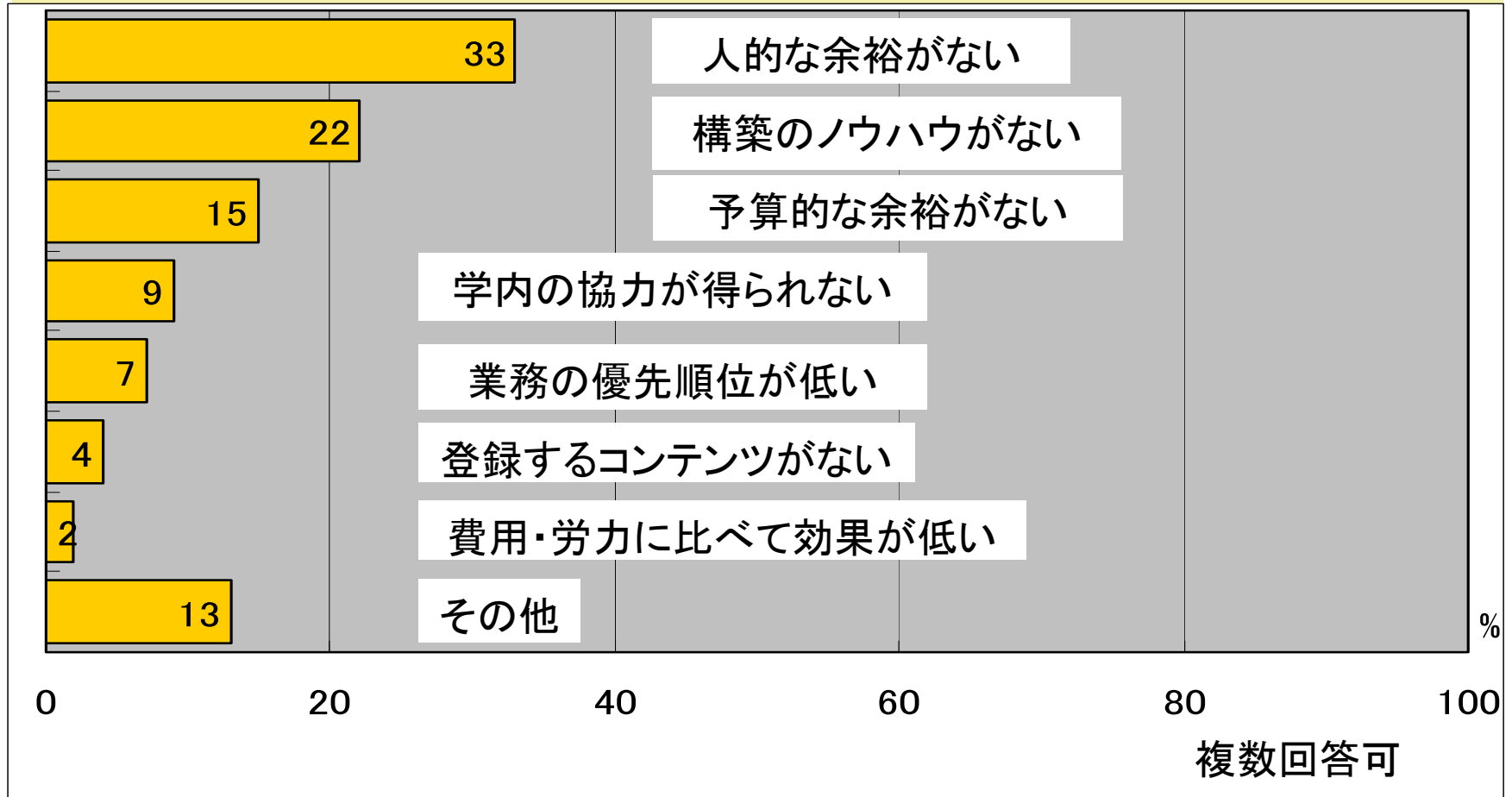


1. 背景

設置種別 国内の機関リポジトリ

	機関総数	リポジトリ構築機関数	うち、共同リポジトリでの構築機関数 (ホスト機関は除く)	リポジトリ未構築機関数
国立大学	86	68		18
公立大学	92	9	5	83
私立大学	595	41	19	554
短期大学	406	8	8	398
高専	64	4	4	60
その他	-	6	4	-

機関リポジトリ未構築の理由



プロジェクト報告書 - 国内の地域共同リポジトリの分析 - 2010年3月 p.29 vii.

共同リポジトリ未参加機関へのアンケートより

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/seika/ShaReReport.pdf>

複数機関による共同リポジトリ

複数機関で生産された教育研究成果等を
一つのサーバに蓄積・保存するリポジトリ



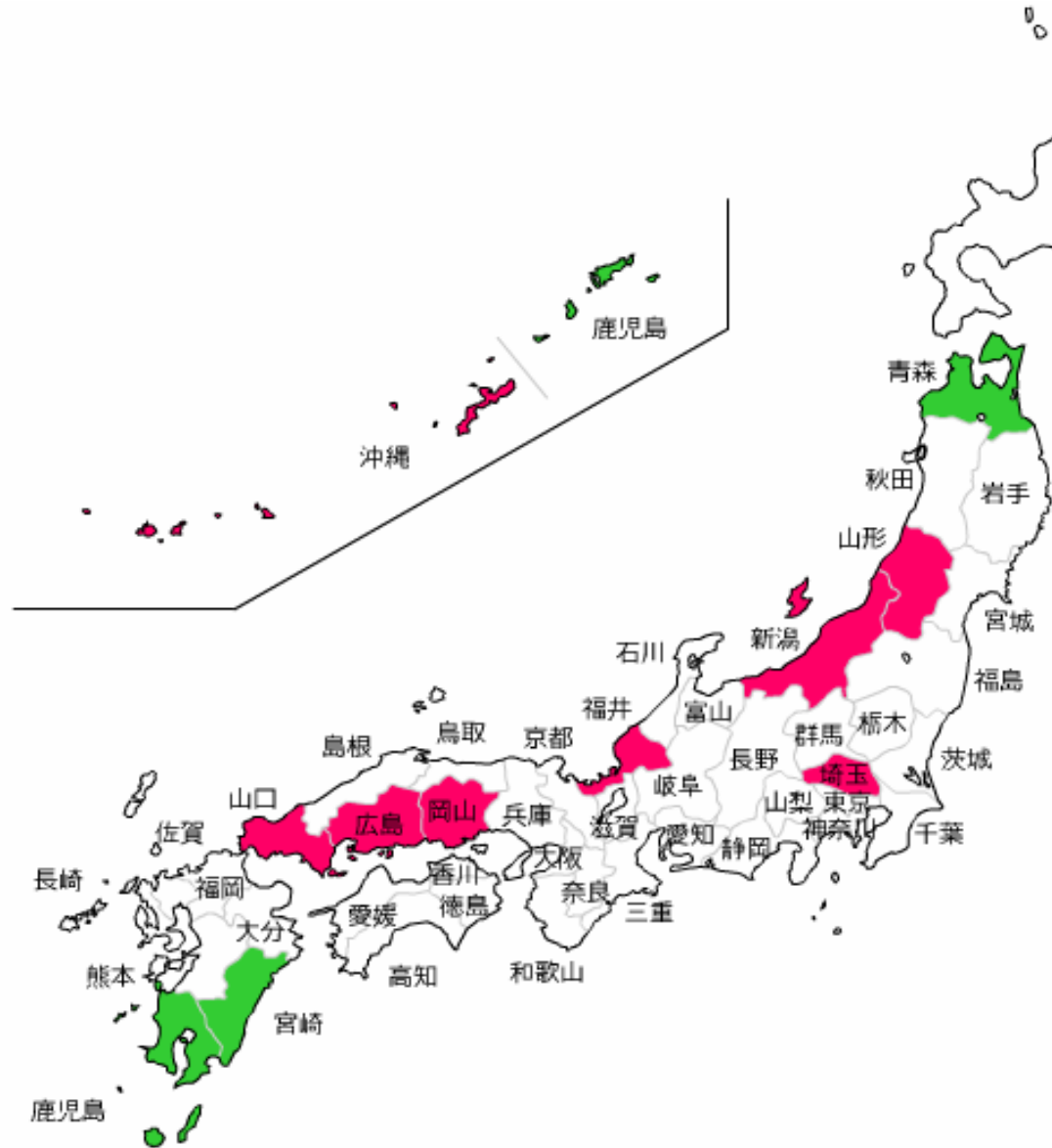
構築費用が抑えられる
技術・ノウハウを共有できる



中小規模機関リポジトリ導入の障壁を除去
オープンアクセスの裾野拡大

2.成果

国内の共同リポジトリ(2010.5現在)



■ 運用中

- 山形(9)・埼玉(8)
- 新潟(15)・福井(10)
- 岡山(4)・広島(12)
- 山口(9)・沖縄(3)

— カッコ内: 共同への参加機関数

ホスト機関 ⇄ 参加機関

■ 構築中

- 弘前(青森)・宮崎・鹿児島

3.活動

平成20-21年度(2年間)の活動概要

1. 共同リポジトリシステムモデルの開発・改善
2. 担当者育成・コミュニティ形成
3. プロジェクト報告書の作成



共同リポジトリのシステムモデル

1. 共有型

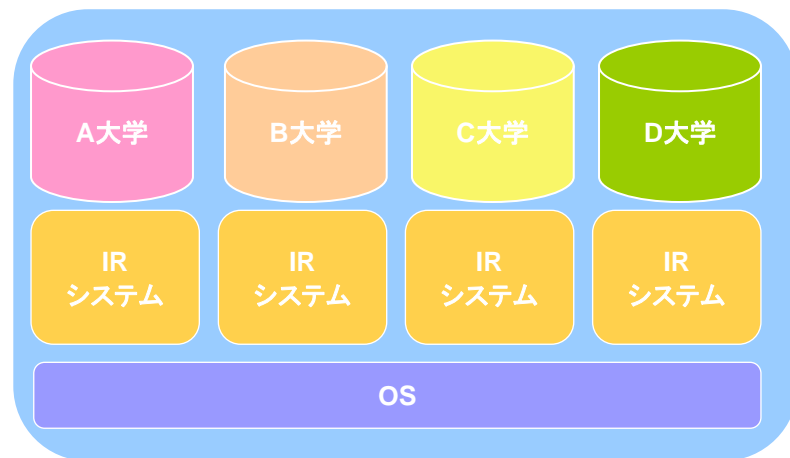
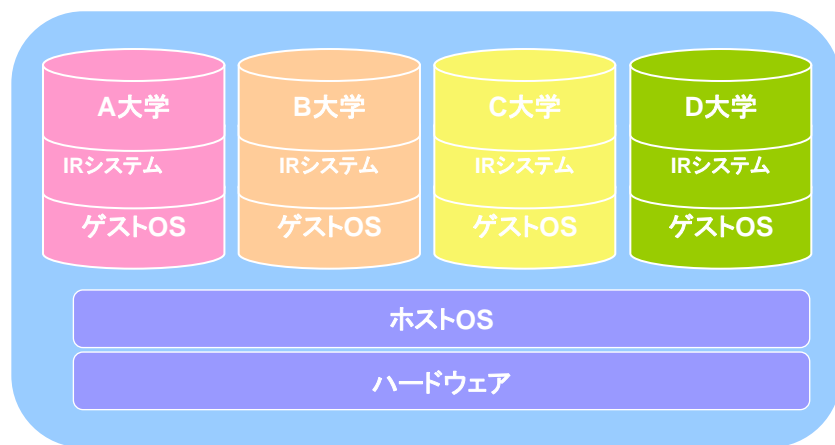
1つのリポジトリシステムを複数機関で共有
(山形・新潟・福井・埼玉・広島・沖縄)



メリット	デメリット
経済的負担が少ない 参加機関のシステム管理負担がない ポータルサイトとして連携感	カスタマイズ→参加機関に影響、意見調整が必要 システム管理機関に負担集中 参加機関の独自性が出しにくい

共同リポジトリのシステムモデル

2. 独立型 参加機関ごとにリポジトリシステムを占有(岡山・山口)



メリット	デメリット
柔軟性→各参加機関の独自性 各参加機関でシステム管理可能→ホスト機関の負担が少ない	システム管理機関に負担集中または各参加機関でシステム業務負担増 ポータルサイトとしての見た目や、一括検索に工夫が必要

3-1. システムモデルの開発・改善

- 平成20年度

「共同」ゆえの課題を解決！！

- VMware serverを用いた独立型システムモデルの構築（岡山共同リポジトリに実装）

- 平成21年度

- 参加機関ごとのbaseURLの設定

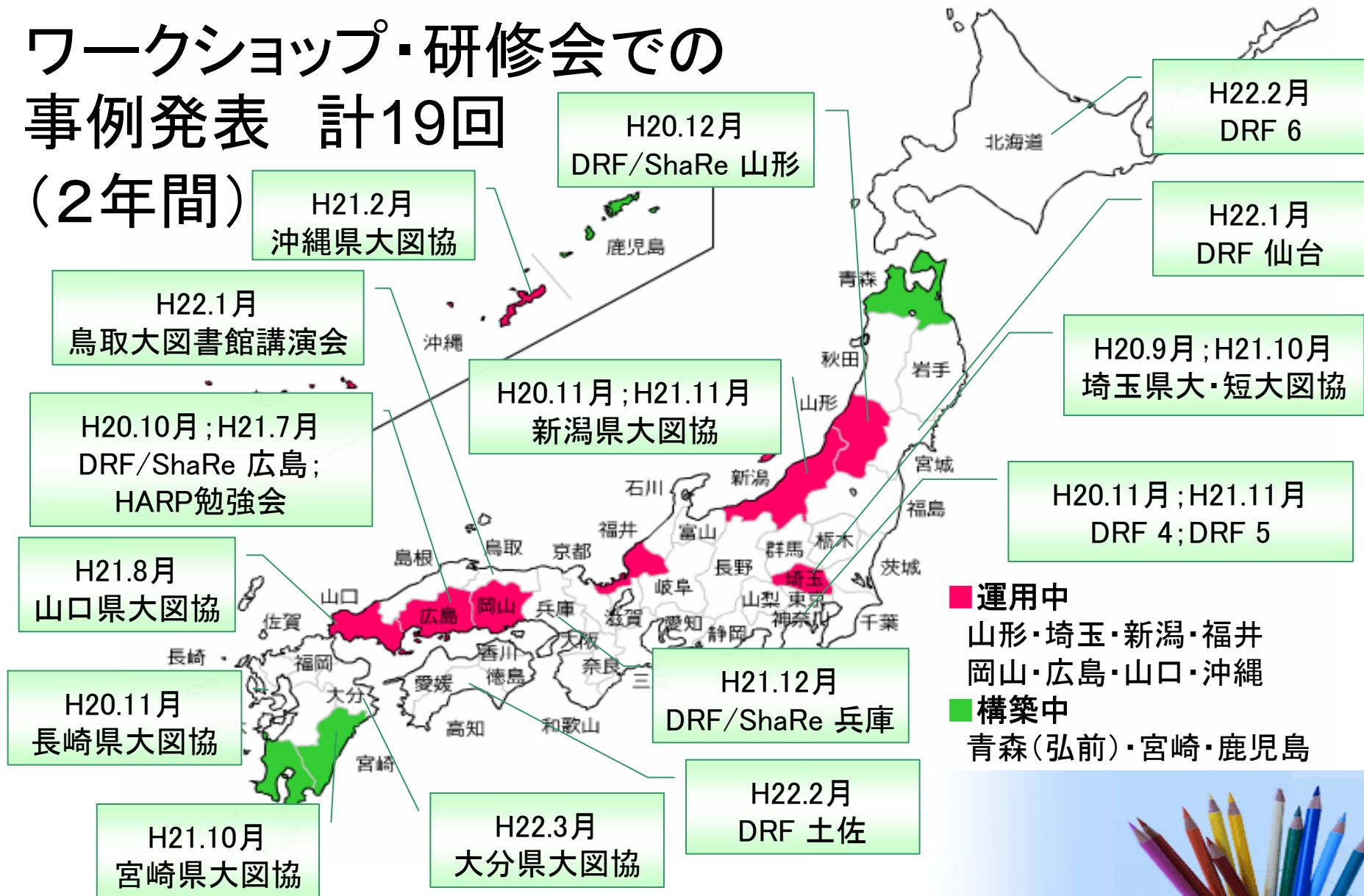
- 参加機関ごとのアクセス統計の取得・自動メール配信

- 参加機関ごとの個別画面の開発



3-2. 担当者育成・コミュニティ形成

ワークショップ・研修会での 事例発表 計19回 (2年間)



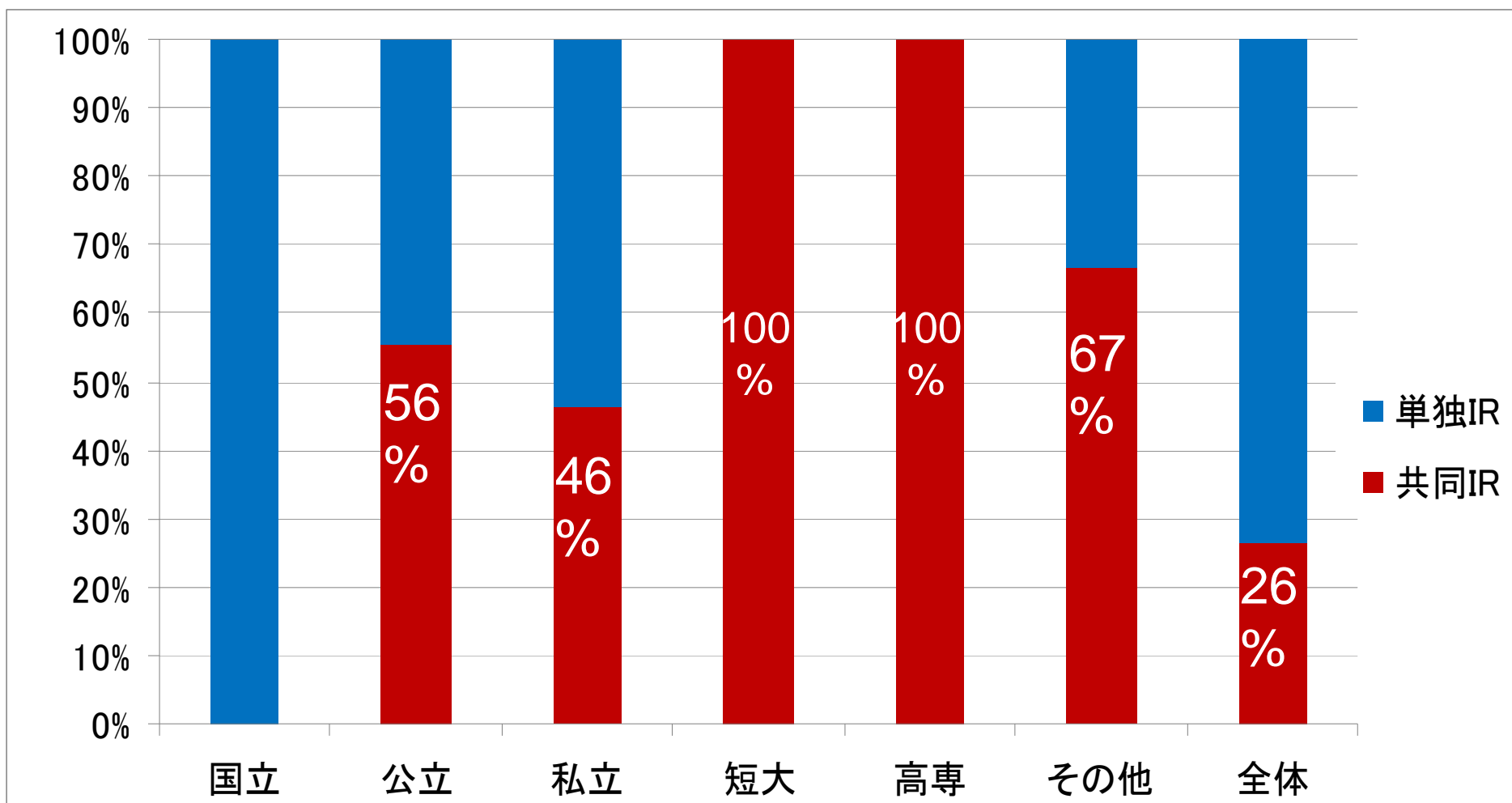
■ 運用中
山形・埼玉・新潟・福井
岡山・広島・山口・沖縄

■ 構築中
青森(弘前)・宮崎・鹿児島

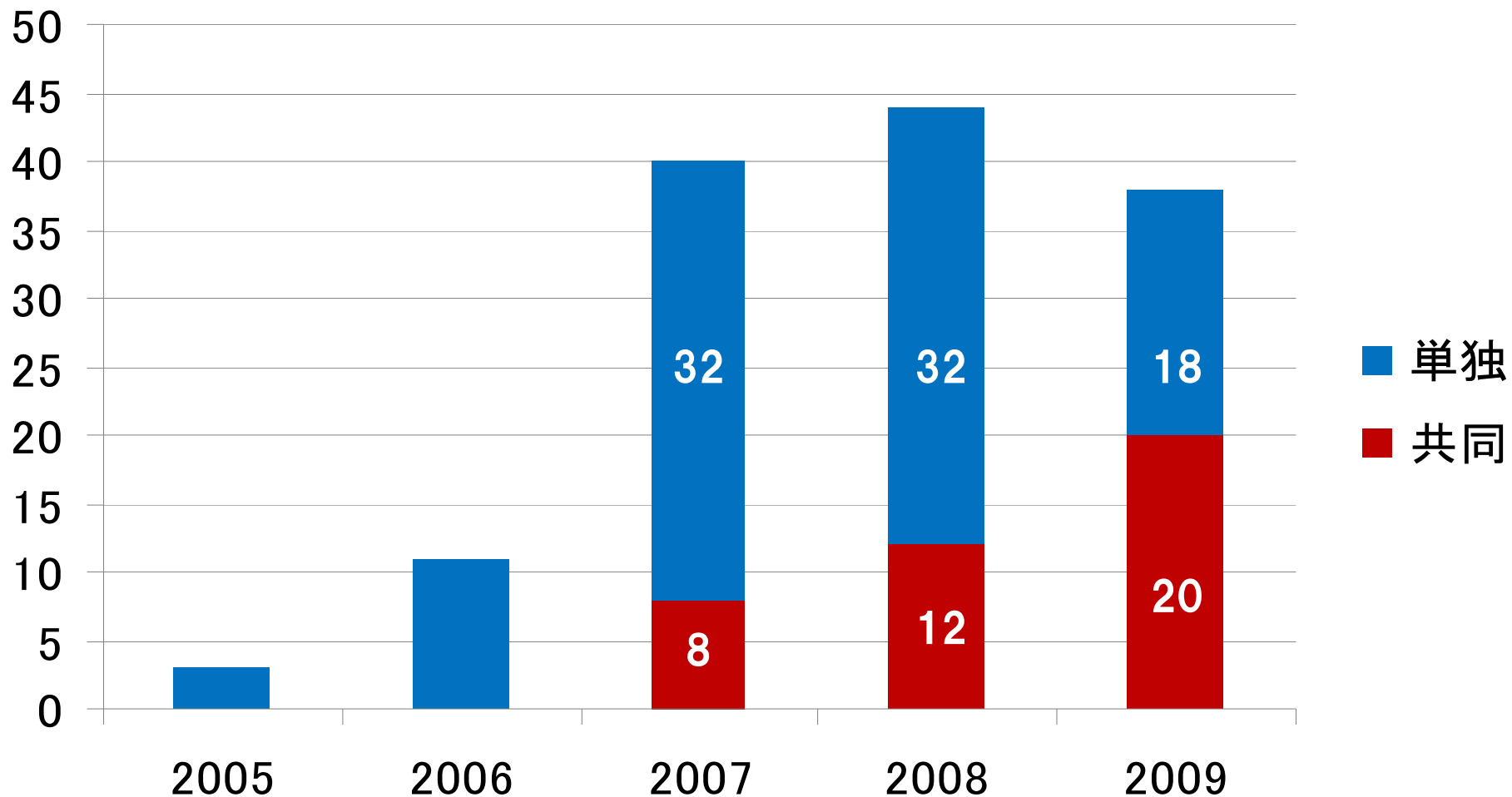


4. 運用モデルの分析

機関リポジトリ構築数に占める共同リポジトリの割合



機関リポジトリ 年間構築機関数



共同リポジトリの運用主体

運用主体	共同IR数	地区名
大学コンソーシアム	1	山形
県大学図書館協議会	3	新潟・広島・山口
県大学図書館協議会 ＋ホスト機関	1	埼玉
ホスト機関のみ	3	福井・岡山・沖縄

プロジェクト報告書 -国内の地域共同リポジトリの分析-

2010年3月 p.31 表4-1

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/seika/ShaReReport.pdf>



共同リポジトリのコスト

- ランニングコスト
 - 参加機関から費用を徴収（広島地区のみ）
 - ホスト機関の学内経費
 - CSI委託事業経費 ← 多くを依存

プロジェクト報告書 -国内の地域共同リポジトリの分析-

2010年3月 p.46-47

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/seika/ShaReReport.pdf>



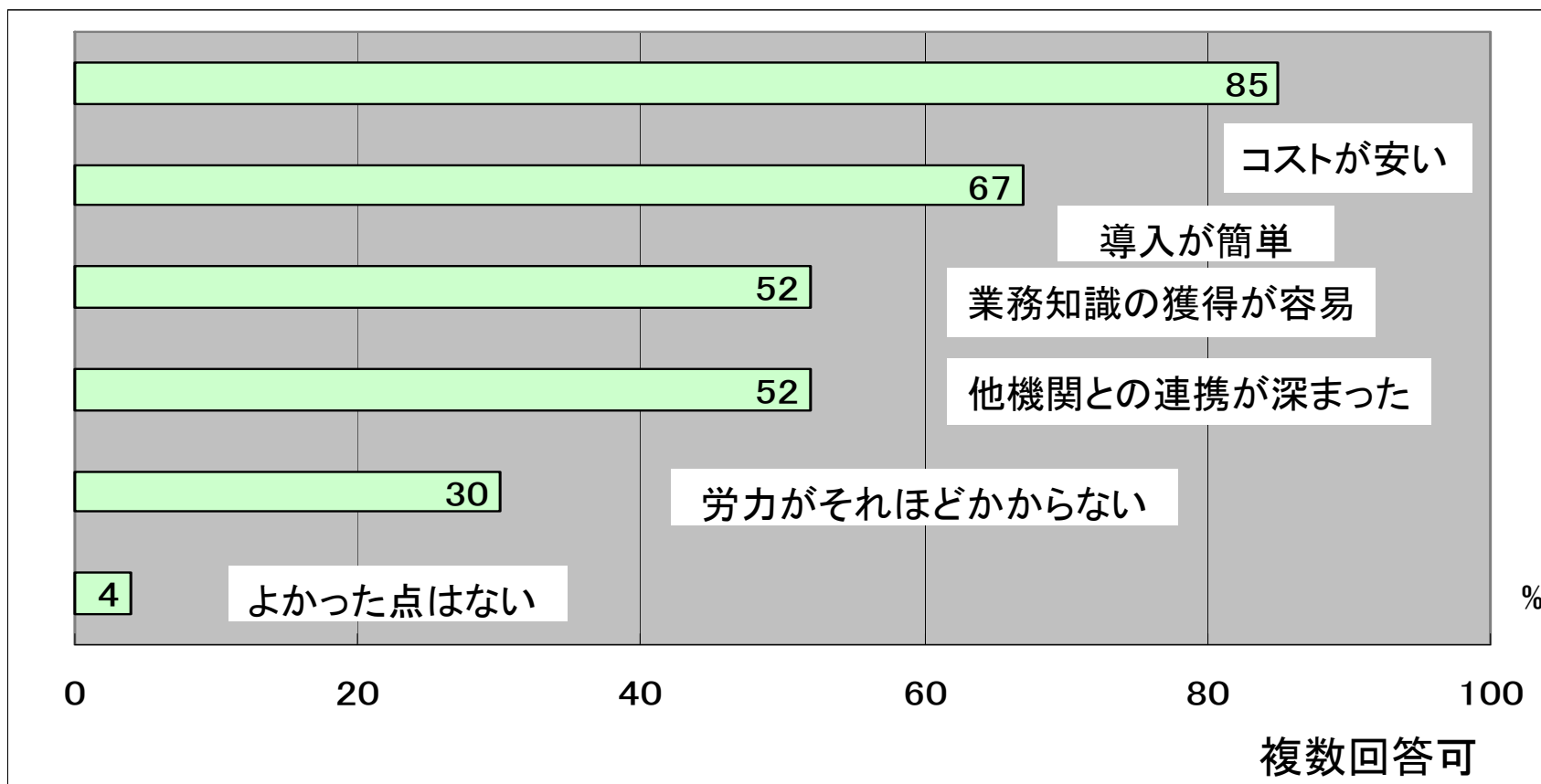
5. 評価(アンケート調査より)

ホスト機関・参加機関・未参加機関は
共同リポジトリをどう考えているのか

対象機関	機関数	機関別
ホスト機関	8	国立8
参加機関	46	国立1 公立8 私立23 短大6 高専4 その他4
未参加機関 (同地区内)	46	国立0 公立2 私立30 短大10 高専3 その他1

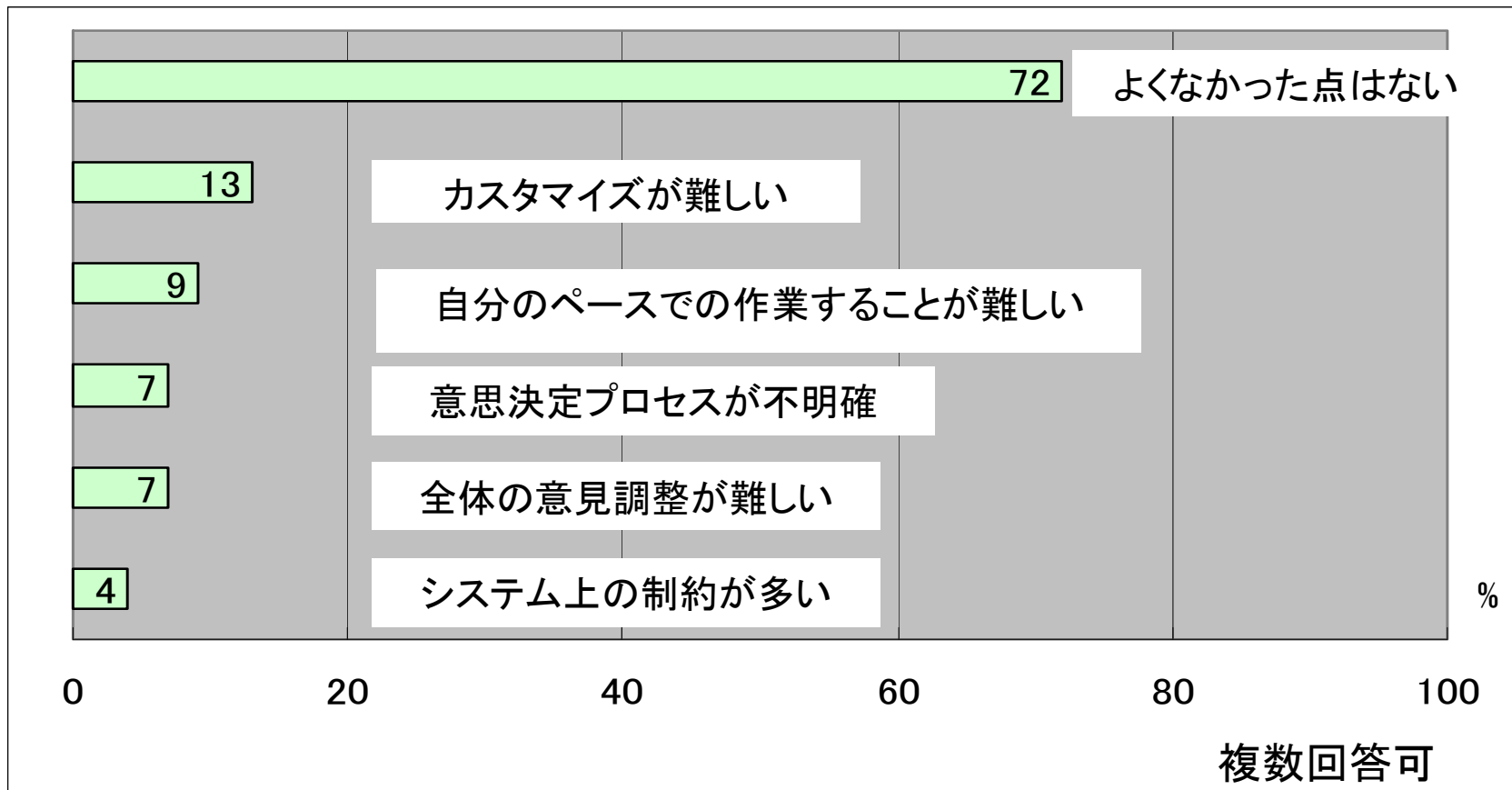
参加機関

共同リポジトリに参加して、よかった点

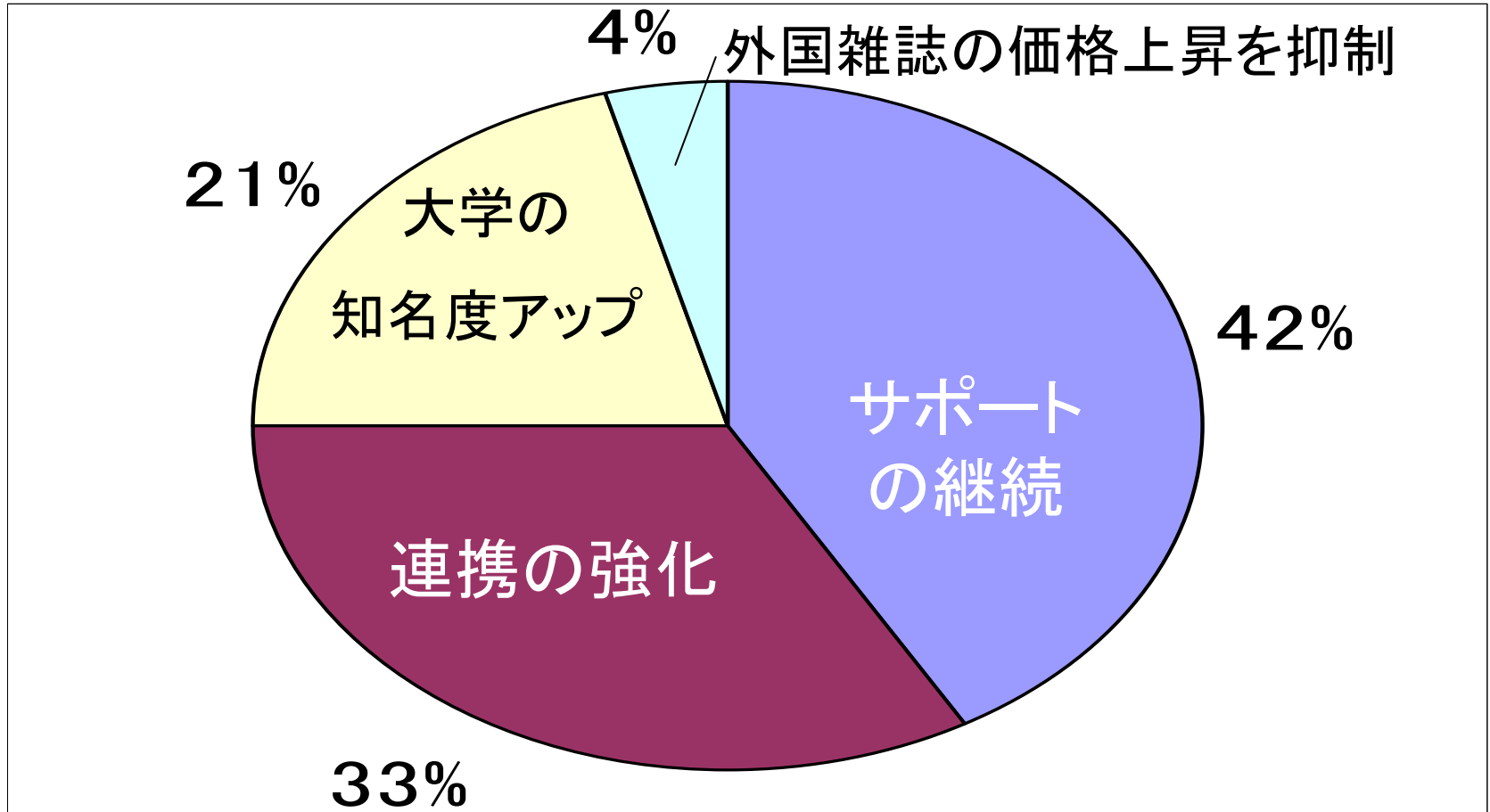


参加機関

共同リポジトリに参加して、よくなかった点

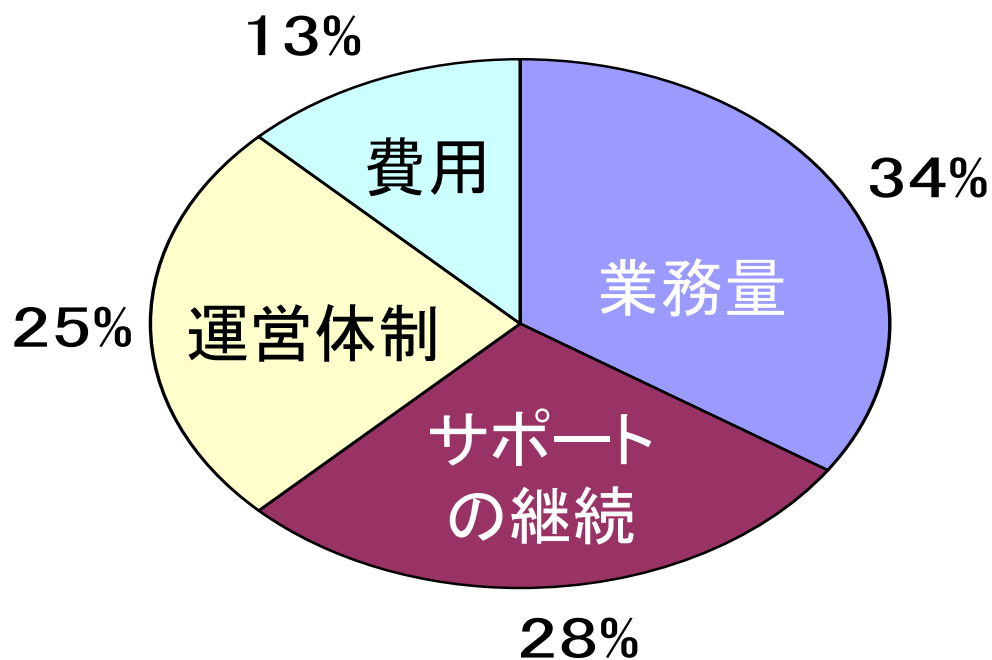


参加機関の期待



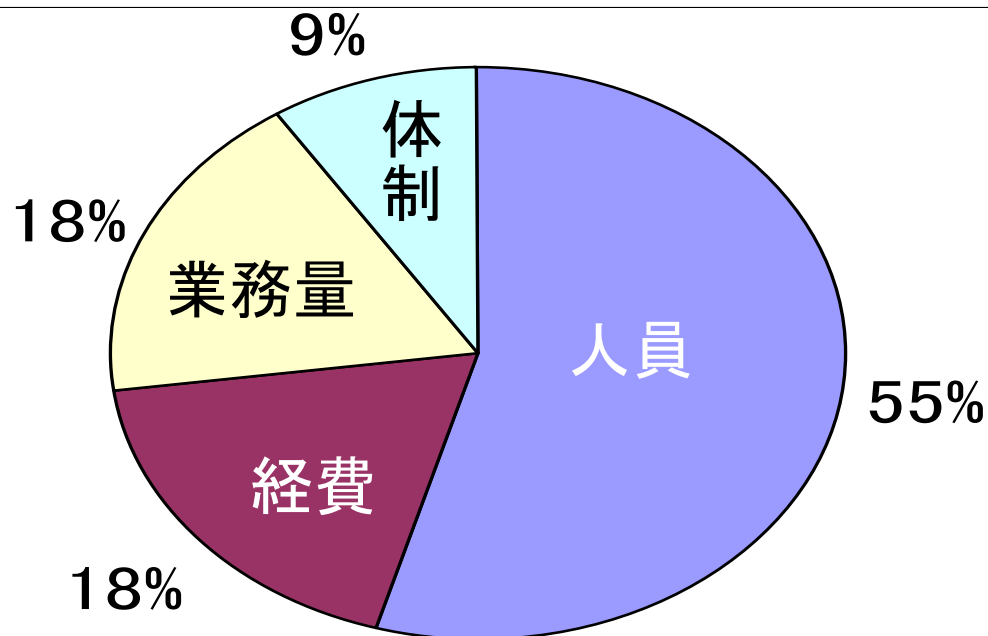
プロジェクト報告書 -国内の地域共同リポジトリの分析-
2010年3月 p.24 xviii.の記述をもとに作成

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/seika/ShaReReport.pdf>



参加機関の
考える
課題・不安

ホスト機関の
考える
課題



ホスト機関の役割

共同リポジトリ構築の牽引役は国立大学

- システム等の維持・管理・提供
- 技術サポート
- コンテンツ登録作業の代行
- 参加機関の調整
- 広報活動



持続可能な運営体制の鍵

- ホスト機関のモチベーション
 - 地域貢献
 - 新しい事業へのチャレンジ、チャレンジの支援
 - 地域機関と顔の見える関係を築きたい

➡ 大きく依存。維持の必要性。

- ホスト機関と参加機関で役割分担

➡ 自立したコミュニティ



6. 課題 と 展望

- 多様化するしくみ

- 「共用リポジトリ」

大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について(審議のまとめ)平成21年7月

- 普及活動の継続

- 研修会・ワークショップ



担当者育成

コミュニティの活性化支援



共同リポジトリの意義

システムの共同利用**だけに留まらない**



地域レベルのサポートによる
活発なコミュニティ形成



図書館活動全般の
活性化への契機



さいごに

共同リポジトリにおける**コミュニティ**は

担当者にとっての
ホームグラウンド



Shared Repository, Shared Pleasure.

www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/share.html

